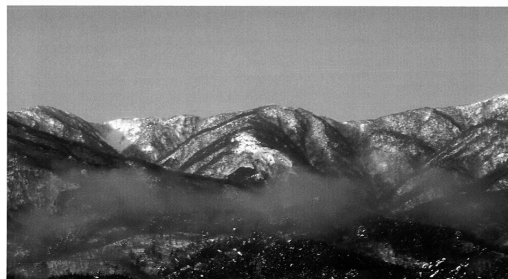


～人も自然もいきいき丹沢～

## 丹沢大山自然再生活動報告会



日時 平成26年2月2日(日) 13:30～16:30  
 会場 ソレイユさがみセミナールーム1  
 主催 丹沢大山自然再生委員会  
 共催 神奈川県自然環境保全センター



### プログラム

13:30	開会
13:30～13:35	1 あいさつ 丹沢大山自然再生委員会 委員長 羽山 伸一
13:35～14:00	2 活動報告 (1) 清川村における登山再生『登山者の声』植林整備 神奈川山岳連盟 杉本 憲昭 (2) 相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修 NPO法人北丹沢山岳センター 加藤 博恵 (3) 相模原市青根「橋止めの森」植林整備及び養蚕サトウキビ畑における養蚕 町田グワフス山の会 安田 俊
14:00～14:25	
14:25～14:50	
14:50～15:10	3 休憩
15:10～16:20	4 活動報告を聞いて 進行：NPO法人北丹沢山岳センター 理事長 杉本 憲昭 ・緑区環境緑地推進協議会 加藤 博恵 ・NPO法人あろく山の会 鈴木 茂 ・神奈川大学学生山岳会 落合 正治
16:20～16:30	5 まとめ 丹沢大山自然再生委員会 横浜事業専門部長 久保 重明
16:30	閉会

## 相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修

NPO法人北丹沢山岳センター  
加藤 博恵

NPO北丹沢山岳センターの前身は、平成6年に神の川ヒュッテ再開と同時に北丹沢山岳センターとして自然保護活動を主活動として、登山道の整備、美化活動、残骸整理、植林活動等多様な運動体として設立しました。

このセンターはかつて神の川流域に入っていた山梨県、神奈川県、東京都などの山岳会やそのOB達によって創られました。

特に平成6年～平成11年の5年間は神の川より大室山に至る日陰新道、神の川広河原より金山乗越に至る源三新道（通称佐藤新道）、神の川より地藏平に至る地藏新道、神の川林道、折花神社より鐘撞山に至る鐘撞山登山道とかつての4コースの登山道を掘り起し、新道等の整備を行いました。

そして平成11年には蛭ヶ岳山荘の旧山荘の廃材回収等のボランティア活動を行い、平成12年からかつての山小屋や避難小屋、伐採小屋などの残骸整理や植林活動を行ってきました。

本日は、私共のこれまでの活動について報告します。

### 「平成12年以降の活動内容」

第1回	蛭ヶ岳のボランティア活動	(平成12年)
第2回	犬超路のボランティア活動	(平成13年)
第3回	原小屋平のボランティア活動	(平成14年)
第4回	地藏尾根伐採小屋跡地ボランティア活動	(平成15年)
第5回	広河原植林活動	(平成16年)
第6回	広河原植林活動・NO2	(平成16年)
第7回	広河原植林活動	(平成17年)
第8回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成18年)
第9回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成19年)
第10回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成20年)
第11回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成21年)
第12回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成22年)
第13回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成23年)
第14回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成24年)
第15回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	(平成25年)

## 平成26年度北丹沢神の川流域の山開きのご案内

春三月を迎え、いよいよ丹沢山塊の山シーズンが始まります。

恒例の北丹沢の山開きを下記の要領にて開催致しますので、皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

### 記

- 1 開催日 平成26年4月13日(日)
- 2 会場地 折花神社 約1時間山開きの記念行事を開催
- 3 集合 AM8:30分
- 4 山開き終了後のスケジュール

神の川林道内及び登山道の点検と清掃活動を実施します。

### 実施するコース

- 1 神の川ヒュッテより犬超路にいたる東海自然歩道コース
- 2 神の川ヒュッテより日陰沢新道コース(県境の尾根まで)
- 3 立石建設より鐘撞山～神の川ヒュッテコース
- 4 神の川園地より風巻の頭の姫次コース
- 5 神の川林道 広河原植林地作業チーム

### 5 その他

遠方より参加される方に、前日に神の川ヒュッテの宿泊を開放致します。但し、副食及び飲み物はご持参下さい。当日の昼食は軽食をご提供致します。尚、前日にマキ割りを実施致しますので、ボランティア協力をお願いします。

## 神の川ヒュッテのボランティア活動の息吹

神の川ヒュッテに集う仲間も年をとりましたが、仲間と共に酔いに心地よく身をまかせ、ストーブにくべる燃えるマキのパチパチという音や、漂ってくる煙の臭い、夜明け前の小鳥のさえずりや鹿のかん高い鳴き声に郷愁を覚え、いつのまにか昔話に夢中になることが多くなりました。

今から20年前に私達は、神の川ヒュッテを譲り受け、山小屋としてのお客様を受け入れる準備の為、ストーブを囲み山仲間10数人と酒を交わしていました。

その時に、山小屋を再開するだけでなく、周辺の自然保護や忘れられている昔の登山道を整備、復活すべきだとの話で盛り上がりました。

早速、藤野山岳会の外山雄幸氏が反応し、協力を約し藤野山岳会の20数名を初め、多くの山男達が協力してくれ精力的な活動が始まりました。

この自然発生的な活動が、ボランティア活動の誕生となり、絶えることないボランティア活動と発展していきました。

この作業は約10年間続き、日陰沢新道、源三新道、鐘撞新道、地藏新道等多くの登山道を復活することが出来、今でも毎年清掃活動と整備を行っています。

その他に、自然再生の為の広河原での植林活動、シカ柵の設置等多くの人がボランティアとして集い、北丹沢地域の自然を守っています。

## 新しくパンフレット作成しました

ご活用ください。



丹沢の自然再生を3団体が活動報告  
相模原

官民で丹沢の自然再生に取り組み丹沢大山自然再生委員会(委員長・羽山伸一、日本獣医生命科学大学教授)は2日、相模原市緑区橋本のソレイユさがみで活動報告会を開いた。約80人が参加し、民間の3グループが活動を報告した。

県山岳連盟の松隈豊さんは、宮ヶ瀬湖畔の清川村煉ヶ谷の山林斜面約8畝で行っている森林再生活動を紹介。「県の『神奈川森林再生50年構想』に賛同し県の助成を得て2009年から、落ち葉かきや倒木の整理などを進めている。当初は林内に差し込む日光の照度が数%しかなかったが、最近では約20%にアップしてきた」と成果を報告した。



丹沢の蛭ヶ岳山荘や北丹沢の神ノ川ヒュッテなどを運営する北丹沢山岳センター

羽山委員長は「再生委員会は本年度、調査部会を立ち上げた。民間団体も含め、これまでの丹沢大山の自然再生の幅広がり取り組みの成果を調べていきたい」と話した。(石本 健二)

三つの市民団体などが丹沢の保全活動などを話した丹沢大山自然再生活動報告会  
相模原市緑区橋本